

○ **重要な基盤技術の推進の在り方**に関して、以下のようなことが考えられるのではないか。

ア) 効果的な研究開発の進め方について

長期的な視点（10年程度）から、将来の我が国の競争力の維持・強化につながる技術を実現するため、**チャレンジングな技術目標を定め研究開発を進めていく**ことが重要ではないか。

その際、技術の社会実装が円滑に進むよう、**産学官が併走・協調して研究開発を進めていけるような仕組み**が必要ではないか。

特に、基本原理の解明から社会実装へとリニアに研究開発を進めるのではなく、**社会実装に向けた開発と基本原理の解明が双方刺激しあいスパイラル的に研究開発**することにより、**新しい技術の開発と新たな科学の創出、そして新しい科学による更なる革新的技術の実現が同時並行的に進んでいく**ような環境が重要ではないか。

また、世界の優れた人材や知識を取り入れて研究開発・人材育成を進めるとともに、特に A I 技術などでは、**人文学・社会科学・自然科学の研究者の積極的な連携・融合**が重要ではないか。

こうした環境の実現に向けて、**優れたリーダーの下、国内外から優れた人材を結集し、柔軟に研究開発プロジェクトを運営**できるよう、研究開発法人や大学に係る制度の改革・柔軟化が必要ではないか。

イ) C S T I の役割、効果的な P D C A の在り方について

C S T I は、我が国全体の科学技術イノベーション政策の司令塔として、**重要な基盤技術について各省庁を俯瞰した戦略を策定**し、効果的・効率的に研究開発を実施する体制整備を促進していくことが必要ではないか。

各重要技術領域の進捗状況を評価し、メリハリを付けながら研究開発を進めるとともに、**大変革時代という状況を踏まえ、技術動向や経済・社会の変化に対し、技術領域や目標の再設定も含め弾力的に研究開発を進めていく**ことが重要ではないか。

評価に当たっても、**大変革時代やスパイラル的な研究開発の進め方といった状況を踏まえて実施すべきではないか。**